

学校の教育目標

正しく 強く やりぬく子

◆興味・関心をもって学ぶ姿

◆学び方を身に付けて学ぶ姿

◆自分の学びを積極的に表現する姿

◆最後まであきらめず学ぶ姿

◆学んで考え・理解を深める姿

◆自分の成長を自覚する姿

◆学ぶ楽しさを全身で表現する姿

◆テスト等で力を発揮する姿

私たちが育てたい「学びの姿」

◆仲間とより良い授業を創り出そうとする姿

◆仲間の考えを大切に作る姿

◆仲間と進んで交流する姿

基盤となる3つの「集団づくり」

1) 仲間と学び合うことで、自分の所属感を  
実感できる学級集団

2) 「聞き方・話し方」など基本的な学び方を  
身に付けた学級集団

3) 高い人権感覚を身に付け、いじめ根絶を  
願うあたたかい学級**集団**



研究主題

仲間と考え、議論する授業の創造

～自己を見つめる道徳教育の推進～



本研究で目指す児童の姿

低学年(1・2年生)

- 仲間と積極的に関わり、自分や仲間のよさに気付き、
- ♥ 思いやりの心をもって、仲良く行動できる子

中学年(3・4年生)

- 仲間と考えを交流し合い、お互いの考えを理解し、
- ♥ 行為の価値に気付き、進んで行動できる子

高学年(5・6年生)

- 仲間と考えを交流し、よりよい考えや生き方についての考えを深め、
- ♥ 日常生活や様々な場面で、適切に行動に移すことができる子

研究仮説

発達段階に応じた交流活動を位置付け、仲間とともに物事を多面的・多角的に考え、議論する道徳授業を行うことができれば、人間理解、他者理解、価値理解が深まり、自己を見つめ、よりよい判断のもと進んで行動する児童が育つ。

研究内容

【研究内容1】

主体的・対話的に学ぶ交流活動のデザイン

- 1) 発達段階に応じた交流活動の在り方
  - 【低学年】
    - ・ 話型や話し方・聞き方、交流の仕方の定着
    - ・ ペア交流など交流場面を位置付けた学習活動
  - 【中学年】
    - ・ ハンドサイン、つなぎ発言等による授業の充実
    - ・ 意図的な「ちょっとコミュニケーション」やグループ交流で仲間とかかわりながら学ぶ交流場面を位置付けた学習活動
  - 【高学年】
    - ・ 目的と必然性を意識した話し合い活動による授業の充実
    - ・ 自らの判断で必要に応じて「ちょっとコミュニケーション」を行い、考えを深める交流場面を位置付けた学習活動
- 2) 全教育活動での「発達段階に応じた交流活動」の位置付け
  - ・ 「発達段階に応じた交流活動の在り方」を全教育活動で指導し、その定着を図る。
  - 交流の必然性を促す発問の工夫

【研究内容2】

自己を見つめる道徳授業のデザイン

- 1) 年間指導計画の作成
  - ・ 他の教育活動や体験活動との関連を明確にした指導計画の作成
  - ・ 採択された教科書に基づいた年間指導計画の作成
- 2) 自己を見つめる道徳授業の在り方
  - (ア) 自己を見つめ、問題意識を引き出す導入の工夫
  - (イ) 価値にせまるための授業形態や教材・教具の工夫
  - (イ) 人間理解、他者理解、価値理解、自己理解を促す発問の精選
  - (ウ) 自己の生き方について、考えを深める終末の工夫
- 3) 考え、議論するための交流活動の在り方
  - ・ 道徳授業における「発達段階に応じた交流活動」を位置付けた授業デザインの工夫
- 4) 道徳ノートを用いた評価の在り方
  - ・ 「宇留生小 道徳ノート」の開発と活用
  - 工夫
  - ・ 「宇留生小 道徳ノート」を基にした評価

研究ビジョン

①各学年部による研究授業の実施 → ②研究発表会の開催(11月20日) → ③実践記録集の印刷製本